

「二重行政」解消で

4000億円浮くって

ホンマ？

「二重行政のムダ解消で年間4000億円が浮く」と維新は宣伝しますが、根拠はどこにもありません。

2013年夏の法定協議会に出された資料には「700億円」と大幅減少。この金額も「地下鉄民営化」「幼稚園の民営化」など「二重行政」と関係ないものを含めた粉飾でした。

法定協議会などでは「せいぜい1億円」などの指摘が相次ぎ、橋下市長は「財政効果なんて意味がない」と言ってしまうです。

2重行政
無くせば
4000億円浮く



「大阪都」とは呼べない「大阪都」構想

「大阪都」という言い方は、法律にも「協定書」にもありません。「住民投票」で決まるのは「大阪市廃止・分割」です。

「都構想」ストップ!



近代都市大阪の基礎をつくったと言われる関一市長。「住み心地よき都市」を目標に置いたと言われます。産業基盤となる港湾や道路、市電・地下鉄などを建設。上下水道、公園、保育所などの生活基盤、中之島・大阪城の景観をつくり、日本の都市政策をリードしました。その大阪市を解体・廃止し、財源・権限を府に吸い上げる

「大阪都」をつくと維新は言います。私たちは、大阪が好きです。この間、東京の物まね、大型開発優先という間違った政策が行われたことがあります。それでも、私たちは、大阪市をなくすことには反対です。大阪市の大きな権限・財源を若者も高齢者も安心して住み、働ける大阪づくりに使い、大阪をよくするために奮闘します。



国・府・市

二重、三重にやってこそ くらし・経済・文化はよくなります!

「維新の会」は、「二重行政のムダを省くために大阪市を解体」と言っています。とんでもありません。

病院や図書館、大学は、国立・府県立・市立が全国で見られます。それぞれが役に立っているなら、市民にとって二重・三重の幸せというべきです。

市民生活や中小企業の活動が厳しいときこそ、支援のための施設・施策を国・府・市町村が二重にも三重にもとりくむことが大切です。



一重でも、二重でも

ムダをなくすのは 当たり前です!

維新が「二重行政」と言うりんくうゲートタワービルと旧WTCビル。バブル経済に浮かれた失政です。「大阪市をよくする会」は当初から批判・反対してきました。「二重行政」の問題ではなく、政策の間違いです。

維新が「二重行政はない」という東京都でもバブルの発想で臨海副都心を開発。「毎日1億円の赤字たれ流し」と批判されてきました。一重でも二重でもムダをなくすのは当たり前です。

橋下語録

「こんな猥雑な街、いやらしい街はない。ここにカジノ持ってきて
どんどん博打打ちを集めたらいい。風俗街やホテル街、全部引き受ける」

(読売新聞 2009年10月30日付)

どちらも市民に親しまれ、役に立つ施設ならムダではないのに、
維新の会がこんな施設・施策を“二重行政”と目の敵に!

大阪府		大阪市
障がい者交流促進センター	福祉	障がい者スポーツセンター
府立急性期・総合医療センター	医療	住吉市民病院
府立公衆衛生研究所	保健・環境	市立環境科学研究所
府立中央図書館	文化	市立中央図書館
府立体育会館	スポーツ	市立中央体育館
ドーンセンター	男女共同参画	クレオ大阪
マイドーム大阪	中小企業支援	産業創造館
府立大学	大学	市立大学

それぞれ役割を分担し、たくさんの方が利用されています。
信用保証協会は2014年5月に統合され、中小業者を困らせています。

一人の指揮官が権限・財源を握り

またまた 巨大開発ねらう!

維新の会は「二重行政」だと市民サービスを切り捨て、浮いたお金で一人の指揮官が「リニアの大阪同時開業」、閑空までたった5分短縮するための「なにわ筋線」など巨大事業に使う計画です。

これではゼネコン浪費型開発の失敗の再現です。

おまけに「カジノ誘致」が「大阪都の試金石」など、大阪経済をバクチ頼みにするのは、とんでもありません。

